

WARS

原案

雷音寺翔汰狼

脚本 盛留直穂

PROJECT MELTDOWN

「これぞギッシリとスカスカ」

原案 「ProjectMeltDown」

雷音寺翔汰狼

<http://plaza.rakuten.co.jp/meltdown>

登場人物簡易紹介

- さとし 生駒智司。高校生男子。大学受験に向け一人暮らしを始めた。
- おねえ 歌のお姉さん。嫁石川の体を借りて参上。
- 嫁石川 お向かいの奥さん。未完成のゲームをくれる。
- リラ 堀蘭太郎。リア充高校生。メルヘンファンデーションを持ち込む。
- まき 日向真希（ひゅうがまき）。リラの彼女らしき女子大生。
- プー君 プー君。永遠の三歳。東京ネコにも出てくる。
- 松風 宇宙剣士の青年。東京ネコに噂だけ出てくる。
- ビーナス さとしの理想の女性。愛川雪江に酷似。

「幕上がる」はずだが小屋によっては幕を作らないので「照明入る」
青く、澄んだ光。月光を浴びる女性。歌のお姉さん。

おねえ 見つめるその目は何を見ているの？
一体。何の前触れ？
・・・はじまるのね。一つだけ教えて。
男たちの心には女神がいるって本当？

視線が流れ星か何かを追う。

おねえ 理想とたがえばたがうほど面白くなるっていうのに。

歌のお姉さん、去る。そして去り際。

おねえ さあ。踊りの時間よ。

照明、変わる。音楽、入る。
ダンス。（実はやってない）

声 ●●（劇団名）！○○公演（公演名）「ヴィーナス」

暗転、後、さとの部屋。

さとしがいる。

さとし あ。もしもし、ぼくです。
予定どおり、引っ越しました。
相模大野です。
駅からはちょっと離れてるんですけど。
便利なので決めました。
豊町っていうんです。
いいですよ。家賃もそんなに高くないし、きれいだし。
これが「相模原デビュー」ですね。
今年1年、ここでがんばります。
高校卒業も、大学受験も、今年1年が勝負です。

インターホンが鳴る。

さとし あ、お客さん。ええ、またかけます。

ドアに近寄る。石川さん（嫁）が入ってくる。

嫁石川 こんにちは。初めまして。

さとし どうも、初めまして。

嫁石川 向いに住んでいます。石川と申します。

さとし 生駒智司といいます。

嫁石川 主人も連れて来たかったですけどね。この時間、起きなくて。

さとし はあ。

嫁石川 若いわねー。

さとし まあ、高校生なもんで。

嫁石川 偉いわねー。高校生でひとりぐらし？

さとし はあ、受験とかあるんで、自分の部屋ほしくて。

嫁石川 そう。勉強できそうね。家事は？

さとし まあ、ひととおりは。

嫁石川 何か困ったことあったら言ってね。廊下はさんでお向かいだから。主人もいつでも

いるし。

さとし 何をなさってるかたですか？

嫁石川 プログラマーなの。9割方在宅勤務ね。

さとし 仲。よさそうですね。

嫁石川 ええ、もう、ラブラブ。いっつもいちゃくらしてるのよー。

さとし はあ。

嫁石川 あ！これお祝い！

さとし へ！？何ですかこれ。

嫁石川 主人がつくったエクストラCD。音だかならオーディオ。パソコンで開くといろいろ入ってるわ。マックでもウィンでもドリキヤスでも、開けるようにしてあるから、とりあえずぶちこんでみて。（婿石川曰く「無理！」）

さとし はあ、ありがとうございます。

嫁石川 どおいたしまして。あ。ごめんなさい。

そろそろ、買い物いくから。ごめんなさいね、本当。

さとし いえ、どおいたしまして。

嫁石川 じゃ、よろしくね。

さとし こちらこそ。

嫁石川 じゃ、失礼します。

石川さん（嫁）、去る。

さとし なんだ？これ（CD）？

さとし、ゲーム機にディスクを入れようとする。

（本番ではゲーム機ではなく音響機材にいれようとした）

インターホンがなる。

さとし はーい。

リラと真希がはいってくる。

さとし よお。

リラ ひさしぶりー。

真希 おひさしぶりー。

さとし おひさしぶりい。

リラ 思ったより、全然きれいだな。

真希 きれいよね。

さとし 都心とは大違いだよ。

この家賃で都内住んだらダメダメなのしかないよね。

真希 いい街じゃない。静かで。駅前もけっこういい感じだし。

さとし でしょ。俺、相模大野好きなんだよね。

真希 リラ、後で駅ビル寄ろう。インポートショップ寄りたい。

リラ いいけど。俺、映画館寄るし。

あ、さとしも行かねえ？

さとし 今日は無理かな。もうちょっと荷物届くし。

リラ なんかだいたいそろってんじゃない？

しかし、コンパクトに引っ越したな？

さとし おれ、物集めたりしないし。

真希 いらぬものみんな売っちゃうし。

リラ じゃ、古淵に越せばよかったんじゃない？

さとし いろいろあるんだよ。ノリってゆうか好みが。

リラ そうか、俺なら合理的に古淵行くけどな。

さとし 本当に合理的に行くなら橋本でいいんだよ。

真希 あなたたちやけに相模原に詳しいわね。

リラ 何度も言うけど、オレら、こっちの高校行ってんの。

真希 あんた。高校行ってたの。

リラ おいおい。最近は大田区都内に用事多いだけで、いちおうこっちは地元なんだって。だから相模大野をオーノ（変な発音）とは言わない。

真希 何それ。

さとし ネイティブな発音は「大野」（おおの）

リラ な？

真希 わかんない、それ。

さとし 「大野」、俺等はオーノとはいわない。な？

リラ 都心にいると発音変になるよ。

さとし おまえ、発音気にしてたの？

リラ これでもニュースキャスター志望だぞ。

さとし その前にロレツと性格直したほうがいいんじゃないか？

真希 このキャラでどうして、ジャーナリストなのよ。

さとし どっちかっていうとラッパーだろ。

リラ どうして俺のマジメさがわからんかねー。

二人 スカスカ！

リラ 愛がないなー。

二人 スッカスカ！

リラ でさー。家賃とかどうしてんの？

さとし なんか、親父、余裕あるみたいだよ。勉強部屋作るより、借りる方が安くつくとかいってた。

リラ わかんねーよな。お前の親父。

さとし そうか？微妙にお前とキャラかぶてるぞ。

真希 じゃあ、わかんねーよ。

リラ なんだおまえら。特に日向真希。
お前、俺の連れの自覚あんのか。

真希 なんで「ツレ」なのよ。「彼女」といいなさい彼女と。

リラ 大人の世界にはなーイロイロ難しいルールがあるんだよ。

さとし 全然わかんねえよ。つうか、真希ちゃんいつのまにくっついたの？

真希 え？初対面ですでに彼女だったんだけど。

さとし うそ？

真希 リラ。あんた一度頭バラそうか。

さとし あ、俺フォローしないから。

リラ まじで？

さとし 余計なことというと、もっと大変なことになりそうだし。

リラ 俺の高等かつ高潔な精神は誰にも理解できんようだな。

二人 すか。

リラ なんだよ、ふたりして俺をいじめて。

さとし そして、どこぞのねえちゃんに助けをもとめるわけか。

リラ それは過去のはなし。今は真希ひとすじさ。

真希 なんかすかすかだなオイ。

リラ ばか。おれの気持ちはいつもお前の方しか向いてないんだぜ。世界一お前を愛して

いる俺を信じろって。

さとし 鳥肌もたちそうなほどにすかすかだな。

真希 やや、ぎっしりよ。コイツ微妙に本音だし。

リラ な。俺ってギッシリ。

さとし それよか。何しに来た？

リラ おっと、お土産を持ってきた。

真希 重いのよねこれが。

リラ 戦利品だ。

リラ、戦利品（一見ゲーム機）を出す。

さとし すごいなこれ。

真希 ラジオ局がくれたんだって。

リラ 俺、こういうのたくさん持ってるし。

どうせなら、引っ越したての部屋にいいかなって。

さとし さんきゅー。こういうの自分で買わないもんな。

リラ 有名になるに連れて、モノは勝手に入ってくる。

真希 あんたじゃなくてお師匠さんじゃない？

さとし 真一さん、元気？（真一さん＝娛誠粒真一）

リラ 大丈夫じゃない？体だけは丈夫だし。

さとし あれで漫画家なのはいまいちわかんないよな。お前が弟子ってのもよくわからん。

リラ 俺はショータローさんの弟子のつもりなんだけどな。

真希 代役俳優？

リラ うん。連中、実は同一人物っぽいけどな。

さとし なにそれ。

リラ 止めとこう。

さとし なんで？

リラ この話は企業秘密だ。詳しくは次の次の次の公演までとっておく。

さとし お前、意外と劇団思いだな。

リラ いいか？人生なんて一つの物語だ。

真希 リラ？

リラ 同時に世界は複雑なドラマだ。

さとし なんか、これに書いてあったような気がする。

真希 「チャーミーゴリラ外伝、東京ネコ」

さとし プーくんのセリフだな。

リラ 感動的だよね。

さとし でも、なんか商売の匂いがぷんぷんした。

真希 わたしも。

リラ そうこう言っても、気付いたら巻き込まれている。

さとし は？

リラ まあいいや。で、最近どうよ。

さとし 最近って？

真希 そう言えば、雪江ちゃん落ちたの？

さとし 何言ってんだよ。今、そんな時期じゃないだろ。

真希 恋に季節は関係ないよね。

リラ ねー。

さとし うわっ、やらしい。

真希 で、どうなのジッサイ。

さとし ……まるで、すすんでないよ。

リラ なんでかなあ、お前いいやつなのに。

さとし そうなんだよね。でも、それが問題なんだよね。俺、いい人なんだよ。

真希 さとしくんかわいそお！

さとし そこ、泣くトコじゃないし。

真希 じゃあ、なんなの。

さとし いいひとと好きな人ってちがうのかなあ。

真希 たしかに。リラは悪い人だけど、好きなひとよ。

リラ ハッキリ悪い人ってゆうな。

さとし それは間違いない。

リラ オウシット。

さとし つうかまあ、電話友だちぐらいにしかなくてない。

リラ なんだ、結構進んでんじゃん。

さとし 進む方向が問題なんだよ。

真希 なんか中学生並な悩みね。

さとし 悩んでないけどオマイラがほじくるんだよ。

リラ こんなに友だち思いな俺等をオマイラとは！

真希 きゃ、さとしくんひどい！

さとし スカスカだな、おい。

リラ いい加減、コクれば。

さとし ばか、できるわけないだろ、あっちも受験生だし。……だいたい、おれには無理だよお。

リラ 少年誌にも劣る発言だな。

真希 ガバっ！パクッ！で一発じゃない。

さとし それはどっちかってゆうとはんざいじゃないか？

真希 狩猟民族ではないようね。

リラ メモしとけ。

真希 了解。

さとし なにそれ。

リラ 狩猟民族でないなら農耕民族の線があるのかな。

真希 電話友だちってところにその節がありますな。

さとし なんだよ農耕民族とか狩猟民族って。

真希 農耕民族の線で掘り下げましょうか、警部。

リラ そうだな。では、彼の好みをきいてみよう。

真希 参考までに、生駒・・・智司君。君の女性のタイプはどんな感じかな。

さとし は？

真希 好みですよ好み。

さとし いきなり言われても。

真希 顔は？

リラ 確か、女優顔が好みだ。

真希 ほほお。性格は？

リラ おとなしめで、しっかりものもいいとか。

さとし なんぞ知ってんだよ。

リラ 刑事の勘ってヤツかなあ。

真希 いきあたりばったりの警部と違って、断定的ですねえ。

リラ うん。私は絶対評価だからねえ。

さとし とりあえず。その刑事ごっこは中途半端だからヤメロ。

真希 つっこみはまあまあ。

リラ なら、天然ぼけとつきあえばいいのにね。

真希 ねー。

さとし さっきからなんの話をしている。

リラ 才能の話だよ。

さとし は？

真希 うまくいけばモッテモテな男性になれるのよ。

さとし まさかおまえら悪徳商法か！

リラ 人間きの悪いことをいうな。これはおれの使命だ。

さとし はあ？

リラ いいか。おれはショータローさんの弟子だ。よって、プロジェクトメルトダウンのルールで動く。

さとし だから、わかんねえんだよ。メルトダウンとか。

リラ なんていうかな、恋愛を楽しむコツかなあ。

さとし 楽しむとかの問題かな。

リラ なんつーか神経すり減るしさあ、

楽しくしなきゃやってらんくない？

さとし お前の口からそんな言葉がでてくるとはな。

リラ まあ、要するに本気すぎてケガすんなよってところかなあ。

真希 ほほおなにかてぬきのにほいがするわねえ。

リラ いえ、日向真希様におかれましては、誠心誠意、忠誠をつくす次第であります。

さとし すかすかもここまできれば気持ちいいね。

真希 このノリに何度騙されたことか。

さとし 何回くらい？

真希 何回騙されたのかしら？

リラ 何回騙したんだろう。

リラと真希、各々手で数える。

真希は片手だが、リラは両手で足りないらしい。

顔を見合わせ沈黙の名をかりたバトル。

へんな空気になった中、さとしがなんとか回避しようとする。

さとし あ、そうだ。さっきさ、お向かいの奥さん・・・若奥さんにCDもらったんだよね。

と、言って戦利品にセッティングする。

ジャケットを見てリラが怪訝な顔をする。

曲がかかる。と同時に何か走り込んでくる。
歌のお姉さんである。

おねえ 良い子のみんなあ！元気にしてたかな！
さあ！お姉さんと一緒に楽しい時間を過ごしましょう！

リラ はーい！

おねえ あれ？そういえばプーくんが見当たらないなあ。プーくーん？プーくーん！
さとし あの、あなたお向かいの。石川さんじゃあ。
おねえ ？
さとし なにしてるんですか？
おねえ そこの君。プーくん見て無い？
さとし はあ？
おねえ どこいったのかしら？
リラ きっとどこかにかくれてるんだよ！（すかすかで）
おねえ そうか。かくれんぼね！
真希 ・・・・あのさ。このノリ何？
さとし いや、お向かいの石川さんカッコ人妻二十数歳のはずなんだけど。
リラ 違う！これは歌のお姉さんだ。
さとし は？
真希 あん？
リラ さとし、全て手後れなんだ。これは歌のお姉さんだ。
さとし 何を言ってるんだ。
真希 そうか。これは歌のおねえさんなのね！（なんちゃってびっくり）
さとし なんなんだ。この勢いがある割にシュールな空間は！
真希 そう。やっぱり手後れだったんだ。
さとし 何を言ってるんださっきから。
おねえ えーん。プーくんみつからないよう。
さとし しかも泣いてるし。いいよ、もう！歌のお姉さんでしょう。
泣いちゃだめでしょ。
おねえ ・・・・うん。わたしがんばる。
さとし うあああ（ぎっしりすぎて気持ち悪い）
真希 さとしくんきつそうね。
リラ しょうがないさ。彼は見てはならないものをみてしまうのだから。
真希 何？
リラ しー・・・お出ました。

おねえ あ（ネコがどっか見てるときみたい）

曲のテンションアップ。
ボルテージあげてあげて、さげて、あげて。
荘厳な感じでSE。
同時に箱の中からプーくんが登場！
騒々しい中、かっこよく名のる。

プーくん プーくん！ぼくしゃあんしゃい！うっしどしー！（三歳になるように設定すること）

さとし、対応不可の顔。

おねえ キャー。プーくん。こんなところにいたのね。

プーくん 人さがしの基本は引き出しと本棚だね。

さとし 引き出しじゃないし、本棚でもないじゃん。

おねえ （流して）箱の中とはテクニシャンね！

プーくん 心。ぼくによ推理にかかれば、なぞは全てとけたあああ！

さとし なんでひとりでそこへいける！

リラ むだださとし。

お前が心を開かない限り世界は元には戻らないんだ。

真希 そんなに非常時なの？

リラ いや、なんかタイミング的に言っちゃっただけなんだけど。

プーくん そんなこっとはにゃい。今、世界の危機は君ひとりの肩に。

おねえ じゃあ、これを。

凄くしょぼい棒をわたす。（魔法ステッキぽくて「鋼鉄」と書いてある）

プーくん さあ、勇者よ。世界の子供達のために、魔王（未定）を倒すのじゃ。（本番では魔王義久釈）よし。これも持ってゆけ！

どう見ても百円玉なコインを渡す。

リラ まずはどこへ行かせましょう。

プーくん ひとまずボクオフ唱和がいえないと話にならん。ボクオフ唱和！

みなさん御一緒に

総員 きょうもびちびち。古淵駅な、まぶだちの感覚を持って、
おいそれと少年には、ファッキンユアアス！却下。
オウシットユーアークレージー、
ハナからぎっしりすかすか、ほらたべてごらん。
うっさいぼけ。たっしゃでな。でなおしてこいや。
もっとよく磨け！まじでコクルな。
勇気、友情、努力、勝利に自動車保険。
責任なんてしてるか！
世界一の俺さ！
ほれるなら今だ！
愛してる今も！

さとし、なんかつらそう。

プーくん 行くのだ勇者。世界の子供達のために。
さとし もう、全然わかんない。
リラ がんばれよ。
さとし こどここ？
真希 あなたの家じゃない？
さとし 何してんの俺。
プーくん 世界の子供達の為に魔王を倒しに行くのだ。

さとし、つい、手許のコインとしょぼい棒をみる。
なんか、脱力。

おねえ 何をためらっているの？愛しい人を救うために立ち上がって。
さとし いま、世界の子供達の為にとか。
おねえ 何を言っているの。あなたが愛しい人を救うことが世界の子供たちのためになる
のよ。
リラ まあ、そういうことだ。
プーくん さ。いってこい。
さとし どこへ？
総員 「どこへ？」？
さとし へ？
総員 ここでいいんだよ。
さとし は？

プーくん 君の心の一番奥で、君の愛しい人が待っている！

照明が、がっと変わる。

プーくん は！記者会見の時間だ！

おねえ わたしもお供しますわ。

プーくん あとはまかせたぞ少年！

おねえ レッツぎっしり！

突如プーくんと歌のお姉さん去る。

さとし おいおいおいって！

リラ 早っ！

真希 あーあ、行っちゃった。

さとし いないほうが落ち着くけど。

真希 でも、これからどうするのよ。

リラ 智司が魔王を倒せばいいんじゃないか？

さとし ちょっと待って。魔王ってなんだよ。

真希 悪い王様でしょ。

さとし いや、微妙にあってんだけど、俺の聞きたいことはそういうことじゃなくて。

リラ たぶん。ロールプレイングゲームに見たててるんだと思うけど。

さとし 俺、参加しないよ。まだ、荷物届くし。

リラ そういうことだから根性なしって言われるんだよ。

さとし だってさあ。変な遊びにつきあう暇ないよ。

リラ 雪江ちゃんがかかっててもか。

さとし は？

リラ このゲームには雪江ちゃんがかかっている。間違いない。

さとし 誰の作業さ。

リラ それはわからない。でも、わざわざ「愛しい人が待っている」って、ヒントをくれてるんだし。なんか一定の条件をクリアしないとつきまとわれるんじゃないかな。

さとし ちょっと、待って。お前ノリノリだったじゃん。友だちとかそういうんじゃないの？

真希 こいつ、ノリだけだし。

さとし ……

リラ 智司。悪いことは言わない。あーゆー連中が来たらとりあえず逆らうな。なにされるかわからないからな。相手に合わせるってキホンだぞキホン。

真希 本職全開ね。

リラ 美女養成講座講師、堀蘭太郎。いつでもどこでも誰にでも教えます。

真希 そういやアンタの本名堀蘭太郎っていうのよね。

さとし 中学くらいのころはホリランで、気付いたらリラだったなあ。

真希 堀蘭太郎からホリラン、ホリランからリラ。二段階で省略したのね。

リラ さて、この堀蘭太郎通称リラが察するに。ゲームを全うしない限り、連中はつきまとう。連中の脅しが、脅し？…まいいや脅しが本当なら、雪江ちゃんも混ぜられている可能性が高い。

真希 面白い仮説ね。

リラ　　ひとまずわれわれの置かれている状況はそんなもんだろう。突破するにはクリアするしかない。

さとし　　なんか、なあ。乗り気じゃないんだよなあ。第一、ルール全然わかんないし。

リラ　　それは問題だな。

さとし　　とりあえず、このデカ過ぎる百円玉としょぼい棒は何？

リラ　　何に使うんだろうな。

真希　　貸してみて。・・・あ、これ。叩くんじゃない？おりゃ！

リラ　　ばふ！あうう、なんで俺え。てゆうか、ちょっと快感。

真希　　アンタ、マゾっけあったの？まあ、なんでもありなんだろうけど。

リラ　　いやそうじゃなくて。ちょっと貸して。・・・ほりゃ。

真希　　げふい！何すんのだよ！って、あれ？なんか変な感じ。あ。肩たたきじゃない？・・・

　　・おおおおお。いい感じだあ。

さとし　　なんなの？結局。

真希　　えい。

さとし　　な！・・・あ。痛くない。痛くないっていうか、なんか元気になるね。

リラ　　長旅には使えそうだな。回復用だなこれ。

真希　　あ。あ。あ。あ。あ。あ。うううう。

さとし　　なんか年寄りくさいねその行動。

真希　　なぬ！

さとし　　げはあ！・・・これ、つつこみにいいかも。

2人　　ほおおおーお。

さとし　　なんだ、その眼は。

リラ　　なんていうか。

真希　　やっぱり突っ込みなんだなあって。

リラ　　うん。

さとし　　おれはつつこみじゃない！

真希　　えい！

さとし　　うお。・・・なんか落ち着くなあ、これ。

リラ　　別な意味で危険な道具だね。

さとし　　これは？

リラ　　なんかにせものくさい百円玉だなあ。

さとし　　このサイズじゃ通貨とはいえないだろう。

リラ　　コンコン！堅さもよくわからん。

さとし　　折ってみる？

リラ　　それは道具さんキレるだろ。

さとし　　そうだよな。

真希　　模様が変だわ。

さとし なんだろうなこの模様。

リラ 漢字が彫ってある。（リラ役の手近な告知）ああ、宣伝だあ。

真希 あと●●週間（残り期間）ないわね。

リラ ああ、いっぱいっさいさ！（なんかまじくさい）

さとし 他には？

リラ ぬう、苦労話は聞きたくないの？

さとし あいにく目先のことで精一杯さ。

真希 とりあえず、使い道はまだなさそうね。あ、まだってことはこれから使うかも知れないって意味だからね。

さとし 本当にこんなの使えるのかなあ。

リラ 頑張る気になった？

さとし なんかなあ、まだ頑張る気になれないんだよなあ。

リラ 腰の重いやつだなあ。

真希 智司君て、気持ち切り替えるの苦手よね。

さとし ああ、よく御存じで。

リラ どういたしまして。

さとし あ、そうだ。玄関閉めれば、入って来ないんじゃない？

さとし、玄関に向かう。

嫁石川がいる。

嫁石川 あら、ちょうどよかったわ。これないと意味ないのよねえ。
さとし 石川さん。
嫁石川 あ。お友達？女の子は彼女？でへへへへ。
さとし いえ、友達のか（のじょ）
嫁石川 トモダチだなんて隠さなくていいわよお。・・・あ！
さとし はあ。
嫁石川 お邪魔だったかしら？
さとし いえ、そういうことじゃなくって。
嫁石川 ごめんなさいね。気が利かなくって。これあげるから楽しんでね。
さとし ありがとうございます。ってこれなんです、ああああ
嫁石川 「がんばってねえええ」
さとし 行ってしまったああ！
リラ リアクション大きいなあ。
真希 なんか手強そうなひとね。
さとし 少なくとも自分のペースにはならないとおもう。
リラ で、なんかもらってたみたいだけど。
さとし ああ、これ。説明書？かな。
リラ 読んでみよう。
さとし 「ついにメルトダウンルールがゲームシステムに搭載されたゾ。君は本当の愛を手
にすることができるのか！」
真希 あら、偶然。
リラ はーはっはっはー！
真希 すごーい。
リラ はーはっはっは！このゲームは我々が勝ったも当然だあ！
さとし そうえばお前は！
リラ 美女養成講座講師！すなわち、メルトダウンルールのプロフェッショナル！
さとし すげえ！でも結局メルトダウンてなんなんだよ。
リラ オoops！・・・うーん。まず、本当のメルトダウンてのは、核エネルギーが制御
できなくなって、熱の上昇が暴走して、まわりを溶かすどころか、地面ごとおっこっちゃうこと
なんだよね。
真希 うん。
リラ で、ここでいうメルトダウンはうちの師匠の恋愛日記「プロジェクトメルトダウン
」にまつわるルールなんだ。

さとし 恋愛日記？

リラ そう、彼のふったりふられたり片思いしたり片思いされたり裏切ったりうらぎられたりの詩みたいな不定期日記。代表的な作品に「Planet In Your Eyes」というのがある。

さとし 「瞳に映る惑星」の原作。

リラ そう、その「瞳に映る惑星」の登場人物たちを研究して、恋の捕獲方法を類型化しようというのがメルトダウンのルールだ。

さとし 世の中って複雑って言ってなかったっけ。

リラ だから、この視点で、少し優位に物事を見つめようというんだ。

真希 ちょっと卑怯なのよね。

リラ そう。卑怯なんだよ。

さとし で、そのメルトダウンの視点で、今、何ができるわけ。

リラ 全部教えるにはとっても時間がかかるから、大卒俺が手伝う。

さとし ありがと。

リラ でも、まず、お前には最低限のことを知っておいてもらおう。

さとし はあ。

真希 その一。

リラ 狩猟民族と農耕民族の違い。

さとし 肉をとるか米を作るかのちがい？

リラ 近いけど、それだけじゃだめだ。今は愛だの恋だののお話だ。

さとし ……わかんねえな。

リラ よくいるのは狩猟民族。有名な生き物はナンパ師。プロサッカー選手も近いかな。

さとし ん？

リラ みんな勘違いしているのはモテるのは狩猟民族だと思っている。

さとし 落としにいくから？

リラ そう！

さとし そうか！

リラ で、狩猟民族ってのは好みの相手にちょっかいを出す生き物。ここまではOK？

さとし うん。まあ。

リラ 難しいのは農耕民族という考え方。狩猟民族に関する知識しか知らないと、この人たちは何もしない、モテない人たちだと思われがちだ。

さとし だろうね。

リラ しかあし、メルトダウンの農耕民族は積極的に耕す人たちだ。

さとし ちょっと、待て。…好みの相手を見つけてゲットするのが狩猟民族だよな。ってことは、好みの相手に育てるのが農耕民族う？

真希 あたりー！

リラ そのとおり！なかなか頭いいな。

さとし いいんだけど、変じゃないそれ。

リラ　　いいんだよ、これで。狩猟民族は短期的な作戦だ。欠点が一つあって、好みの異性って意外と少ないもんなんだよね。で、素質ある相手を自分好みに変えていくのが農耕民族。

さとし　　すげえ、外道だけどなんか立派なこと言っているみたいに聞こえる。

リラ　　ただし、これは相手が自分を好きな場合に適用される。

さとし　　意味ないじゃーん。

リラ　　だから。そこが農耕民族の凄いところなんだよ。狩猟民族は「第一印象」または「第一、第二印象のギャップ」によって惚れさせる。

さとし　　じゃあ、農耕民族は。第二印象、または第二、第三印象の・・・

リラ　　ギャップもしくは深さによってハマていく。

さとし　　あり地獄な感じだね。

リラ　　そう、入り口広くて出口がない。しかも何人でも大丈夫。雑誌に載ってるモテ方ってのは狩猟民族がほとんどだ。農耕民族について教えているのは俺のような美女養成講座講師ぐらいなものだ。

さとし　　おまえってやっぱり外道だったんだ。

真希　　知ってる知ってる。

さとし　　真希ちゃん。こんな話し聞いてひかないの？

真希　　ごめん、わたしかなりメロメロだから何言われても平気。

リラ　　な。こういうことなんだよ。

さとし　　お前って狩猟民族っぽいのかなあ。

リラ　　わかってきたなあ。俺はかけ合わせタイプ。農耕民族が王国なら、俺は帝国って感じかな。

真希　　なにか違いでもあるの？

リラ　　勉強しろ大学生。

真希　　ゴフ！

リラ　　帝国はなあ、領土広げたり、侵略しにいたりするんだよ。

さとし　　攻めるだけじゃなく、その後統治するんだな。

真希　　げふう。

さとし　　今言った意味って実は相当ひどいはなしだな。

リラ　　うん。よくわかってる。

真希　　いいわよ！リラがどんなに浮気したって、私、リラのこと好きだもん。

リラとさとし、ほっといてみる。

真希 ……あの…… コメントは？

さとし なんか、ギッシリすぎてあきれれる。

リラ ついでだから今の現象。これを虜の法則（とりこのほうそく）という！

さとし ！

リラ 俺から見て真希は本当に信じられる。

真希 ぼ。私もリラのこと信じてる。

リラ 「信じてる」って全然意味わかんない言葉だけど。この場合さあ、俺が真希に冷たくしても、真希はまず俺を裏切らないわけだ。

さとし 理由は？

リラ 特にないけど。いろいろ試した結果、まだついてきてるから、この子は「俺の虜なんだあ」って確信してる。

さとし こんなこと言ってますが。

真希 否定しないわ。

さとし つうかいろいろって何したの？

真希 浮気をほのめかしたり、他の女の名前小出しにしてみたり、シカトしてみたり、本当に浮気してみたり。

さとし ……。

真希 ハラハラするけど、結局大丈夫なのよねえ。

リラ ばか。俺は真希だけだよ。

真希 ばかあ。

さとし ……。あーはずかし。でも、農耕民族がなんなのか分かった気がする。あと、虜の法則も。

リラ なんとなくわかるだろ。

真希 ときどき、こいつ女より腹黒いなあって思うときあるわ。

リラ それ今日のテーマかもね。（ぼそっと）

真希 え、もっかいいって。

リラ 真希、いつもいい香りだね。

さとし 死ぬ。俺死ぬ。

真希 （遠くを見つめながら）ああ、スカスカ万歳……。

さとし だめだあ、この人。本当に年上なのかなあ。

リラ 高三と大学一年なんて差あないよう。高二と高三の方が差が大きいよ。

さとし 学年で上下感あるもんなあ。

リラ 雪江ちゃんは高二だっけ。

さとし おれ、たぶん、いいお兄さんなんだろうなあ。

リラ あ、ちょっと待って。電話！はい。あ、はい。え？智司？いるけど。うん。変わっ

てみる？

さとし え？誰。

リラ 雪江ちゃん。

さとし ぶほ！

リラ どうする？変わる？

さとし え？なんで？

リラ どうすんの？・・・あ、ちょっと待ってね。どうづんの？

さとし ・・・（手をのばす）

リラ 変わるねー。

さとし ・・・あ、もしもし、いこまですが。雪江ちゃん？どうしてリラの番号知ってんの？え？一緒に引っ越し手伝わないか聞かれたあ。

真希 ああ、さっき君のバイト先顔だしたの？

さとし （2人にはキツ叱り顔）あ、いいよ、別に。うん。引越しもうそろそろ終わるし。・・・じゃあ、今度お祝ちょうだい。はい？・・・え、ちょっと。何？うん。じゃあ。・・・変わるわ。

リラ 何？（受け取る）

真希 さとし君、電話中声いい感じー。

さとし よく言われる。

真希 電話作戦はありだね。

さとし あ、そうだオマイラ嬉しいけど余計なことしなくていいよう。

真希 はっはっは。それより何言われたの？びっくりしてたけど。

さとし うん。なんかねえ、「ちゃんとクリアしてね」って。

真希 なんのことかしら。

リラ じゃ、さとしにも伝える。分かった。ありがとお！じゃ！

さとし ・・・。

リラ 大変だ智司。テレビつけろ。

さとし いやそれさあ。

リラ あれ？テレビは？

さとし まだ、届いてないんだよね。

リラ ああ、どうしよう！

真希 何慌ててんの？

リラ テレビで説明したほうが早かったんだけどなあ。

真希 だから何が？

リラ ああ、いい。さくっと伝えよう。

今、テレビじゃお前のことでもちぎりだあ。

2人 はあ??（真希とさとし）

リラ 世界中で15歳未満の子供が石像になっているらしい。

2人 はあああ？
リラ ちょっと前にゲームの開始が宣言された。同時に、あるコインがないと魔王と戦う資格がないと発表された。
2人 ますますわかんないさ。
リラ 説明書のはじめの方と似てる。「さあ、己を知る旅に出よ」
さとし もしかしておれ？

真希とリラ、例の百円玉を指差す。

さとし まじでえ。なんでえ。うそだろう？
リラ お前、雪江ちゃん信じないの。
さとし 信じるってゆうか、ついゆうこときいちゃいそうだけど。
真希 「ちゃんとクリアしてね」って言われたんでしょ。
おねえ で、愛する人を救うんでしょ。
さとし うわ！
おねえ きっと心を痛めてるわ。自分の知ってる人が戦わないばかりに、世界中で子供達が・・・（ないけどハンカチ）
プーくん 泣くでない乙女よ。（男前）
さとし 君は石像にならないの？
プーくん 僕は特別。
さとし 三歳でしょ15歳未満じゃん。
プーくん 三才じゃなくて「永遠の三歳」
おねえ プーくんはねえ、としをとることができないのよ！
さとし ……。
おねえ そうね。あなたにはまだ、愛の力が無いのね。
プーくん そうだ、彼の心の旅を手伝おう！
おねえ そうだ。智司君の愛について聞きましょう！さ、大きな声で！さとしくん誰が好き？
さとし ……あの。俺の心の旅って。
リラ じゃあ！おれが！
総員 おおお！
リラ みんなどけい！

とってみんな後ろへ。

リラ、中央ではりきる。独裁者の演説みたいに！
かっこいい曲。

リラ 好きだ。たまらなく好きだ。
この言葉の意味を！本当の価値を誰が分かっているのか！
俺は真希が好きだ。言っても言っても言い足りない。
すかさずだろうとぎっしりだろうと、心を込めて、いつも口説く。
好きだという、ただひとつの真実のために、俺は進化し続ける。

さとしがつつこむ（他は順次、台詞前にいつの間にか入る）

さとし なんてお前がしゃべってんだよ。
リラ 何が？
さとし 俺の心を旅するんだろうが、なんてお前がいるんだよ。
リラ わかってないなあ。これがお前的な俺の役割だろ。
さとし はあ？
リラ お前、俺をこういう奴だとおもってるだろ。
さとし まあな。
リラ 違うんだよなあ。ジッサイは。
真希 何がよ。
リラ 俺はこんなに薄っぺらじゃない。
真希 そうかしら。
さとし こんなもんだよな。
真希 ね。
リラ ま、俺の第一印象なんてこんなもんだよ、どうせ。
二人 第一印象？（さとしと真希）
リラ 見てろお前ら、あとでびっくりさせてやる。
真希 何？すねたの？
リラ プイ！
真希 あーもう。
リラ うー（真希にすがりつく）
真希 はあ、こいつどうにかなんないのかしら。
プーくん では、拙者がたたっ斬るなり。
おねえ これを。（なんかとても切れそうな刃物）
リラ いやーん。
真希 いいから無駄な時間にしないで。
リラ だって、僕は真希しか見えないんだもん。
さとし あー寒気がする。
真希 あたしはくらっときたあああ！
おねえ ちょっとどきどき。

プーくん いきおい3段重ね。もとい一服盛ろうか。
さとし あああああ！なんなの！なんなの一体。特に君。プーくん？三才？なに、君。
プーくん なんだろうね。
さとし 僕に何させたいわけ。
プーくん 予定よりも切れるのが早いじゃないか。
さとし どうしてそんなに偉そうなの。
プーくん 偉いから。
さとし ……じゃなくて。
プーくん ああ、君よりハンサムだっしー。
さとし ……なんか、やだ、このかんじ。
おねえ じゃあ、歌でも歌う。
さとし ……どうしてこう、みんなして自分のペースに
おねえ じゃ、歌います。

歌のお姉さん、ついに歌う。

歌が進むと照明の雰囲気が変わる。

少し薄暗くなっていく。闇からひとりの男があらわれる。

松風 どなたか、お呼びか！

リラ よ。松風。

全員 松風え？

プーくん あのおいぼれの弟子か？（おいぼれ＝『東京ネコ』のライガン）

さとし なに、またさっきのまんが？

松風 私を御存じとは光栄です。

さとし ちょっと待って。どのページにも出てないじゃん。（第1話の1ページ目はじっこに影だけでてる）

リラ だから、こいつもお前の想像なんだって。

さとし 俺はこんなこと想像してない。

リラ と、言ってますがどう思います？

プーくん アリです否応無しにありです。にてないけどこんな松風もアリ。

さとし ち。お前らもう、グルか。

リラ グルっていうか「ふぁみりー」だし。

さとし お前ショータローさんの弟子だって言ってたじゃん。

リラ それは次の次の次の公演まで秘密って言ってんじゃん。

さとし じゃあ、そこを秘密にできる程度に説明しろよ。

リラ まず、俺の師匠がショータローさんだろ。 ショータローさんたちがお仕えしてるのがこのお方なわけだ。師匠のご主人さまなんだから、おれもお仕えしなきゃ。

さとし うあああああ！なんで、3歳児に仕えてんだよ、大のおとなが！

リラ お前の知ったこっちゃない。

さとし ほんと、それで済ます気？

真希 まあ、いいじゃない。あんまし怒るとモテないわよ。

さとし それとこれとは別。

おねえ はーい！分析終了でーす！

3人 へ？（さとし、リラ、真希）

おねえ ここはさとしくんのプライドの部分です！

真希 はったりなところ。

リラ つまりスカスカ領域。

さとし そうか、ここは俺の表層意識・・・っておい！なんでおれより周りのほうが詳しい。

総員 はーはっは！きみなんておみとおしさああ。

さとし むかつくう。なんかしんないけどむかつくう。
おねえ でなきゃこんなにまったりした空間なわけがない。
真希 ああ、わかる。さとしくんて心の壁がまったりしてるのよね。
プーくん ほお、少年。心の羽根がべったりしてるのか。
さとし それ、親父ギャグっていわない普通。
おねえ それはおいといて。君はどおやら、あんまり本音で語らないようね。
プーくん ほっといてくれ！
さとし あんたじゃなくて。
プーくん うにゅう。（真希にとびつく。）
さとし こいつが原点か。（プーくんをつまみリラを見る。リラ楽しそう）
おねえ だめよ。大事に扱わなきゃ。それに、この人のこと忘れてない？
松風 どおも。

さとし、完全にキレるのを抑える。

さとし で！なんでしたっけあなた。
松風 ここから先は私が案内します。
リラ そうだな。こっから先はおれと松風だけで手伝おう。
さとし まて。騙されないぞおれは！ここにいる必要はないじゃないか。
おねえ なによ。あなた夢オチでおわらす気？
総員 うわあ、それつまんねえ！
さとし ひでえ。この芝居をつまらなくするつもりか？
松風 その可能性もあったにはあったのですが。（初演の松風役は作者）
おねえ えい！
松風 ごふう！
おねえ お前なんか死んじゃえー！（泣きダッシュ！）
プーくん うお泣きダッシュ。
リラ 別にフラれたわけじゃないのに。
プーくん あとはまかせた！勇者よ！（猛烈に去る）
松風 行ってしまいましたね。
さとし かなり動機不十分なんだけどね。
リラ で、夢オチってなんの話しだ。
松風 これです！

松風、例の戦利品を掲げる。

松風 皆さん、これがなんだか御存じですか？

真希 さあ？ゲーム機？
松風 おおよそあっていますが、そんなちんけなものではございません。
リラ メルヘンファンデーション。
さとし え、シナリオにはドリームラストって。
松風 メルヘンファンデーション！アルジプロダクツ製の究極の「夢オチ」マシンです。
真希 堂々とよくそんなつまらないこと言えるわね。
松風 すいません。この際面白いかどうかは別としてください。このメルヘンファンデーションは幻覚作用を利用して情報を脳に直接投影する、全く新しいメディアインターフェイスです。
真希 そんなすごそうなもの、どうして無名なのよ。
松風 簡単に言えば、精神医学的に危険が伴うので、そこをクリアできるまでは発表がおくれています。

劇中の説明は嘘で、公式設定では「再生したソフトが現実化してしまう」装置のシリーズ

さとし じゃあ、それ製品版じゃないんじゃ、
リラ ああ、試作版四号だ。一号から三号は演劇パワーで動く。
真希 演劇パワー？
リラ そしてこの四号は「スカスカ」パワーを使うんだ。
さとし つまり「スカスカ」な力で動くんだな？
真希 ちょっと待って。演劇パワーについての説明がないわ。
リラ 真希！（なぜか投げキッス）
真希 ドキューン。（なんかホレボレっす）
リラ 知らなくていいんだそんなこと。
さとし はい。ひとり消えた。
松風 説明して、よろしいでしょうか。
二人 よろしく。
松風 いつもだったら夢落ちのはずの展開です。しかも普通はリセットを押すか災害時にはストップします。ところが、やはり試作機です。完全ではないようです。ずばり言いましょ。町中巻き込んでます。生駒智司さん。あなた、勇者に選ばれましたね。あなたが状況を変えないと、世界はずっと異常事態のままです。
リラ 電源は？（明らかに電源抜く）
松風 もはや、本体は意味を成しません。状況設定が町中のスカスカなパワーを得てどんどん増加しています。
リラ さとし、どうやらやるしかなさそうだぜ。
さとし いいよもう。俺寝るよ。

松風 エンドオブジャッジメント！

派手な音響とともにリラとさとしがふっとぶ。

「ジャスティス」という公演で使った過剰演出技。

二人 どふっ！

松風 いけません！とっとと魔王を倒し、愛する人をすくいなさい！物語性のないラヴストーリーなんて認めませんよ。魔王は駅ビルのエクサイトで待機中のはずです。さがし出してやっつけること。それが貴方の使命です。

リラ 障害の多い愛ほど燃えるもんだよな。行くぞサトシ。

さとし 見える！見えるぞ！俺が完全にはまった瞬間裏切られる感じがあああ！

松風 っさいぼけ！愛についてうだうだ言うな！すべてはいきおいです！とっとと行くのです。「第二場！相模大野！」（このテの「」はテロップ気分で）

暗転。

多少、小物減らす。人も減る。リラとさとしだけ残る。
明転後、大野らしい色合い。白地に反射光。

リラ　　はい。というわけで。第二場です。さっきちょっと暗くなりましたね。暗転で言うんですよ。知らない人に自慢してくださいね。さて、我々の状況を再整理してみましょ。うっかり発動したメルヘンファンデーションの影響で、地球丸ごとRPGのような世界になってしまいました。勇者に指定されたさとし君は100円玉としょぼい棒を武器に、魔王に立ち向かいます。

松風　　ここは任せて、君は先へ進め！（殉職！）

さとし　　松風ええええ！

リラ　　「松風倒れる！」お前は早く6階にあがれ！思いっきり戦ってこい！

さとし　　リラ！お前まで！チクショオオ。ああわかったさ。お前達の死は無駄にしない！

松風　　「リラこと堀蘭太郎散る！」

リラ　　予想以上に少ない障害、いきなり魔王。（ここで省いている冒険は巻末で）・・・
そして決戦の相模大野！

プーくん　　だーはっは。よく来たな勇者よ。

さとし　　展開はえー！つか！きさま、やっぱり貴様が魔王か！

プーくん　　いでよ優秀なケダモノども。

ぞろぞろ入ってくる。だいたいみんな。

総員　　ひゃっひゃっひゃ。（ばかにした感じで）

さとし　　だああああ！貴様まで！

リラ　　悪く思うなよ！もはやおれはおれであっておれではない！

さとし　　さて、どうやって倒すかな。

プーくん　　はっはっはワシの情けじゃ。うぬがルールを決めよ。

さとし　　たいした自信だな。

プーくん ワシは無敵じゃ。

さとし じゃあ、これならどうだ。責任ゲームっアルファ！

プーくん なぬ。

おねえ はい。良い子のみんな解説するわね。責任ゲームとは順番にひとりひとことギクリとするような事を言って、それを聞いて一番へこんだひとが負けです。責任ゲームアルファとはトランプを使って、発言に制限を加えたものです。赤なら恋愛ネタ！黒なら仕事ネタ！場に出たカードを負けた人にあげて、最後に数字に合計の少ない人が勝ちです。

松風 では、今日のジャッジはこの私、松風こと●●（松風役の人）です！さあ、全員ならべえーい。上手の人からいってみます。

（責任ゲームα実演！）

（さとしが敗北の場合）

プーくん ふ、ワシの時代は終わった。真のすかすかは君だ。さあ、ゲドゥーを極めるが良い。

（さとし大勝利の場合）

プーくん ぬほーっ！なんてぎっしりなんだ。覚えてろよ！

（痛み分けの場合）

プーくん よくぞワシと互角に戦った。

（こっから一緒）

プーくん、去る。

残り全員で。智司をたたえる。

松風 なお、今の責任ゲームは「ヤラセ」です。たぶん。（ヤラセでした）

真希 さすがね。まさか数分で全部カタがつくなんて。
さとし 俺うしろめたいこと全然ないし。
リラ これで俺も生き返ることができる。
おねえ 世界中の子供たちも、きっと助かるわ。
松風 ありきたりですが、感動のエンディングです。

ゴージャスな音楽。
智司をたたえる拍手。
ドアらへんに女のひとの影が。

さとし うれしいけどなんだろう、この騙されているような感触は。
おねえ ついにご対面ね。
さとし だれと。
おねえ それはあなたが一番よく知っているはずよ。
さとし まさか。
おねえ あなたの一番愛しい人。
ビーナス 「さとしくん」
さとし 雪江ちゃん。
ビーナス 「ありがとう。わたしのために」
さとし 姿を見せてくれ。

ビーナス、凜として登場。

さとし 雪江ちゃん。
ビーナス さとしくん、私うれしい。こんな私のために。
さとし 何言ってるんだよ。君のためだったら僕は・・・俺は、君のためだったら世界を敵にまわすことも恐れない。
ビーナス そうね。貴方はよく戦ったわ。これで心置きなく思いを伝えられるわ。私、さとしくんが好きよ。ずっと、それが言いたかった。でも、いつもはぐらかすじゃない。だから待っていたのよ。
さとし 俺も雪江ちゃんが好きだ。
ビーナス ありがとう。さとしくんの愛でいっぱい。
さとし さあ、おれと一緒に帰ろう。こんな、夢じゃなく、現実の世界へ。
総員 は？
さとし 何？

ビーナス　これが夢だとでも？
さとし　え？
ビーナス　ひどい！ひどいわさとしくん！夢だと思って私を弄（もてあそ）んだのね！「雪江ちゃんが好きだ」なんてそんな偽りの口説き文句。よく言えたものだわ。
さとし　そんな。俺は夢だろうと現実だろうと君を愛している。
ビーナス　いいえ。貴方は嘘つき。本当は愛してなんかいないくせに。
さとし　愛してる！
ビーナス　じゃあ、私が誰かちゃんと答えて。
さとし　君は愛川雪江。僕の恋人になる人だ。
ビーナス　そうやって私を苦しめる。
さとし　何を言ってるんだ。
おねえ　その女に智司を渡すわけにはいかないわ。
ビーナス　やっぱり・・・（こいつも泣き！）
さとし　あんた突然。
おねえ　私の顔をジッと見て。
さとし　へ？
おねえ　貴方は私に逆らえない。
さとし　な。
おねえ　貴方が落とすべき愛川雪江はそこにいるビーナスなんかじゃない。
さとし　ビーナス？
リラ　君の理想の女の人だ。
おねえ　そして私は貴方の味方よ。
リラ　君の指令塔。もうひとりのビーナスだ。
真希　まだ、高度なんじゃない？二人のビーナスなんて。
リラ　男はいつまでもこの二人のビーナスの狭間で葛藤するんだ。まあ、いずれはこの指令塔のビーナスが強くなるけど。
さとし　やめろ！一体おれに何をした。おれは一体！・・・くそう頭が！
真希　はい、痛み止め（しょぼい棒でたたく）ふりゃ！
さとし　がふっ。・・・なんで、なんでなんだ。何なんだ。
リラ　言っただろう、君の心の一番奥だ。君が一番愛しい人に気持ちを伝えた。だがそれは現実の雪江ちゃんとは違う存在だ。
おねえ　現実を見て！そして現実をロマンスで突き動かすのよ。

全体、暗くなる。

さとしだけに照明。

さとし 愛してない？俺は現実の雪江ちゃんを愛してない？理想の・・・都合のいい雪江ちゃんを愛してないのか。好きだ。たまらなく好きだ・・・でも。

リラ 俺の言ったのと同じなのにな。

照明ちゃんが入る。

さとし リラ、俺は一体。

リラ 君はまだ愛を失ったわけじゃない。こっちのビーナスが、君を導く手筈だ。

さとし どうなるんだ。

リラ 君は変わる。本物の愛川雪江を愛するに足る人間に。

さとし なあ、それって変じゃないか。どうしておれが変わる必要がある。

リラ 君は変わる。なにもかも。それが君の願いだ。

さとし 違う。俺は俺として雪江ちゃんを好きになりたい。

リラ だめだ。それじゃあいつまでもビーナスを追いかけることになる。

さとし ……。

真希 さとしくん。今までの自分に価値なんかあるの？

さとし なんてひどいことを。

真希 この世は女の支配する世界。ビーナス達の戦いの地。男は道具よ。このしょぼい棒やらコインと同じ。使われないと意味なんか無い。そのビーナス（歌のお姉さんのこと）は簡単には貴方に女を渡したりしないわ。あなたの理想が高い証拠ね。

おねえ 変わりましょう、私達。いつまでも、恋に恋なんかしないで。

さとし ……なぜ。なぜ突き付ける。おれは普通に生きているのに。なにごともなくゆっくりと成長したいのに。引っ越しただけなのに。なぜいきなり大人の世界に引きずり込む！

ビーナス だって、これは貴方が望んだことよ。

さとし なんだって？

総員 このタラシめが！

さとし はああああ？おれが？何言ってんの？

リラ お前の願いを叶えるためにおれはやってきたんだ。

松風 忘れたんですか？あなたの幼年期。

ビーナス （帽子かぶったりしてプーくんに変身しつつ）

さとし あ、お前！

プーくん 僕の願いは一。大好きな美紀ちゃんとお、とってもかわいい優ちゃんとお、おめめぱっちりの理穂ちゃん、佳織ちゃん、あとねえ豊木先生とお、お隣の睦美ちゃん。えっ

とえっと、とにかく好きな子全員お嫁さんにするの！

総員 うわーあ。

さとし ば、おれじゃないよ。

リラ 幼稚園時代お前はこう言ってその全員と結婚の約束をしたんだ。先生を除き他はお前と同じく約十七・八歳。悪いが時間がもうなくてな。

真希 この年ってなぜかそういう約束思い出すのよねえ。

おねえ お肌の曲がり角が来る前に、男の棚卸しするのよ。

松風 恐ろしいですなあ。

リラ 笑いごっちゃない（いちおうツッコミ）

松風 どおも。

リラ どうするさとし、これから大変だぞ。

さとし 何が？

リラ 分かってるだろう。そろそろお前は女達に値踏みされる。それに備えて、俺はお前のビーナスが見えるようにこの場を設けた。

真希 ごめんねさとしくん。夢オチではないの。

プーくん かけおちでもない。

さとし 黙れ！・・・うあああああああ！ああああーあ。もういい。どうとでもしろ！

おねえ いいのね。

さとし ああ、いいさ。好きにすればいい。

プーくん よろしい。

リラ 君は変わる。スカスカを乗り越えて。

松風 ギッシリに生まれ変わる。

さとし ・・・なあ、俺はどうなる。

真希 カッコいいわ。

さとし あのお・・・

真希 覚悟した男って素敵。

さとし （照れてる）

リラ でも、真希は渡さないよーだ。（ラヴラヴ）

さとし （はにかむ）

おねえ さあ、生まれ変わるのです。

プーくん 君の望んだ君の姿に。

さとし、プーくんの出たところに入る。

松風 さとし殿、生まれ変われ。「第三場、ビーナス」

暗転

照明の変化。

暗いながらも夜のようなほのかな明るさ。

ビーナスと歌のお姉さんと真希が並んで座っている。

ビーナス あの日素敵な夢を見た僕
おねえ 君とられるだけで幸せだと思っていたのに
真希 こんなにいい感じになれるなんて
ビーナス あまりに驚きで
おねえ あまりに嬉しくて
真希 いつまでもだらだらと
ビーナス 詩をつづっている
おねえ ……恋する日々が夢だと言うならば
真希 僕の人生ってなんなんだろう
ビーナス 好きになって傷ついて
おねえ 好きになって傷ついて
真希 また 違うのかって
ビーナス 枕を濡らし
おねえ 女のひとより ずっと女々しい僕は
真希 こんな日がくると
ビーナス ちょっと調子狂っちゃう
おねえ 愛されるなんて ちょっと傲慢なことで
真希 自分が何を見ているかの方が大事なようだ
ビーナス 汚らわしい言葉を捨てて
おねえ 美しい言葉を持つ
真希 同時に
ビーナス 嘘の美しい生き方を捨て
おねえ 本当の泥臭い生き方をつかむ
真希 それが本当の美しさだと思いたいから
ビーナス 僕はあいつと
おねえ 同じ明日を見ることにした
真希 見つめあう愚かしさより
ビーナス 同じ何かを一緒に見る方が
おねえ ずっとずっと大事
真希 だから

三人 ふたつのビーナスは一つに重なった

松風が入ってくる

松風 いつしか僕はこのスカスカな世の中を乗り越え、ぎっしりな毎日を作ることだろう。どんな、美しい言葉にも負けない。確かな僕でありたい。・・・さとし殿はどうなったのですか。

おねえ お勉強中。

真希 経済力かあ。それはそれで・・・

ビーナス そうでもないわよ。大切な人を守るには底力が必要なのよ。

真希 御苦労なこった。

松風 おかげで時は止まったままですな。

真希 そうね。（ドリラスのリセットをがちゃがちゃする）いっこうにクリアする気配ないし、どうなっちゃうのかなあ、私達。

おねえ もうちょっと待ちましょう。彼が変わるまで。この町と同じよ。

ビーナス そうね。街と男って似てる。

松風 何がですか？

三人 女次第。

松風 ほお。

おねえ 男の価値ってさあ、頭んなかにどんだけいい女がいるかなのよね。

松風 じゃあ、このさとし殿の一番奥にいるあなたがたは？

真希 そりゃもう、

三人 いい女よ。

松風 ここは美しいところですね。

ビーナス あら、腹黒い女たちの世界よ。

松風 さて、拙者どもはどうしましょう。

おねえ お話しでもしてましょう、智司君の柔軟性のある恋愛のために。

真希 真直ぐ君だからなあ。

ビーナス ねえ、旅でもさせてみない？

おねえ どんな？

ビーナス 手に入りそうで入らない女探しの旅。

真希 軟派修行かあ。

おねえ まだ早いわ。開き直ってないし。

ビーナス あとはねえ、雪江とイタチごっこ。

おねえ そっか。どこまでもどこまでも。

真希 運命の人に出会える時まで。あー、可哀相。

おねえ いいのよそれで。

松風 成長には終わりがありませんからね。
真希 で、貴方は？
松風 中途半端な道徳心です。
ビーナス 理想の女性像です。
おねえ 指令塔です。
真希 女友だちです。
松風 ここはすっきりしてますね。
ビーナス 結局全部ここできまるのよ。見えざる女達の議会。ねえ、ちゃんと見てるのかしら？
おねえ 見ては・・・いないかな。
真希 聞こえているかしら。
おねえ 聞く気があればね。
真希 聞く気があったって。
おねえ 無理よね。
松風 私がいる限り。そうですね。じゃあ、私が消えます。
真希 いいの？
松風 ここは女神の城です。私はもう、いいでしょう。愛のない紳士はただのスカスカです。
ビーナス かつては王様だったのにね。
松風 それは言わない約束です。彼には寂しい思いをさせませんが、もう、いらないでしょう。
おねえ (そっぽをむいてる)
松風 そんな顔しないでください。必要になったらまた産んで下さい。
おねえ (うなずく)
松風 では・・・お達者で。(去る)

しばし沈黙。

ちょっとすると歌のお姉さん、ぼそぼそ歌い出す。
ふらりとリラがあらわれる。

リラ 智司の為とはいえ。いつもこれだ。

リラ、歌のお姉さんの頭をなでる。
お姉さんすこしきげんなおる。
お姉さん、歌い上げる。

リラ こんな、あってもなくても本当は一緒なのに。

真希 夢落ちは嘘よね。

リラ 夢か幻か現実か、嘘か真実か、本気か遊びか。それは智司が判断すればいい。おれ
たちは施行錯誤を手伝えればいい。人間てえのはたいへんだな。

ビーナス 楽ではないけど。

リラ 楽しみようはある。

ビーナス いい男。

リラ 人生は強気で行くもんだよ。

真希 哲学ね。

リラ 生きることと恋することってかぶってるからさ。

おねえ ちょっと、借りていい？

真希 ・ ・ ・ いいよ ・ ・ ・

おねえ ありがと。

歌のお姉さん。リラの胸を借りる。（うでは肩です）

リラ 昔のさとしの理想の姿。

おねえ ・ ・ ・ 私が甘いばかりに、消せなかったの。

リラ いいやつだった。うまくとりつくろってまた使えばいいよ。

おねえ しばらくいいや。

ビーナス ごめんね。わたしばかりいい思いして。

真希 いいのよ。立場がそれぞれなんだし。

ビーナス いつか。消える、私。

真希 時々大きくなっちゃうわたし。

リラ それもいいさ。

ビーナス 消えるのに頑張る私。
リラ 忘れないよ。
おねえ 愛する人を売る私。
リラ 立派なことだよ。
おねえ 悪いひとかな？わたし。
リラ 偉い人だよ。・・・女神達はみんな偉い。
ビーナス そういう貴方も。
リラ ある意味ビーナスなんだけどね。
おねえ 卑怯もの。
真希 よく知ってる。
おねえ はい。（リラを真希に渡す）
リラ じゃあ俺もさとしの一部なんだ。
真希 いまさら何よ。
リラ でもここに智司が来ないってことは、他の形を模索してんのかな。
ビーナス 進化してもらわなくちゃ。
おねえ 見てみたいな。
ビーナス 何を。
おねえ メルトダウンするところ。
ビーナス 2人で溶け合う愛の形。
真希 そこまで行けばこわいものなしね。
リラ ひとまず世界は元の形にもどるんだらうね。
おねえ 裏面のクリア条件は。
リラ イノベーション。イヤ、どっちかってゆうとエヴォリューションかな？
真希 進化？
リラ そう、進化しつづける覚悟ができたとき、さとしの新しい生活がはじまる、何もな
い平坦な生き方、若者には似合わないよ。
ビーナス 多少、冒険してもね。
真希 許されちゃうからね。
おねえ あたらしいこまさとし。
リラ ギッシリって噂だね。
全員 ふふ。
ビーナス 目には見えない進化が起こる。
リラ さ、そろそろおれたちの声が聞こえるようになるぞ。
ビーナス 構想力って大事だぞ。
真希 平常心で大事だぞ。
リラ 甲斐性って大事だぞ。
おねえ 自信で大事だぞ。

リラ あ、揺れてる。
真希 さあ、おいで智司君。
ビーナス いい女が待ってるぞ。
リラ 根性出せよ。
おねえ 一緒に考えよう。・・・じゃ。歌おうっか！
ビーナス どうぞ。
真希 （イントロをくちずさむ）
ビーナス （あわせる）
おねえ 一緒にどうぞ！（で、歌う）

リラが箱を開ける。が、すでにさとしはいない。

別の方向をみると、智司が入ってくる。

さとし　　気付いたよ。あたりさわりのない行動が当たり障りのない毎日を作ってるんだ。だから、はじめるよ。勇気ある行動で、刺激的な毎日。

リラとさとし互いに腕を交わす。

リラ　　後ろで見ておくよ。

リラ、後ろに座る。

さとし、うでを差しのべ、歌のお姉さんを傍らに置く。

動けなくなってる真希を撫でる。すると、真希座る。

とまどってるビーナスの両肩に手を置く。ビーナス座る。

振り向き、歌のお姉さんに強い視線をあてる。で、座らせる。

そして、さとしは前を向く。お客さんに強い視線を当てる。

さとし　　好きだ。

演出的には静かに盛り上がる。

おねえ、ビーナス、真希は総立ち。おのおの惚れ顔。

さとし　　おれはお前が好きだ。だから、つきあいたいと思う。俺も変わる。そしてお前も変わる。もう一度言う。・・・好きだ。

もう一步盛り上がる演出。

ちょっとして、智司が片手を高く掲げる。

そして、パチンと鳴らす。

総員、さとしと同じ方向を見る。惚れ顔から真剣な眼差しになる。

ちょっとして、おねえがパッと横を見る。みんなも続く。

すると音が静かになり、松風がいる。

松風 愛川雪江さんからの電話です。（電話渡す）
さとし ああ、もしもし。ありがとう。きょうからよろしく。今日？ひとまず、相模大野で待ち合わせなんてどうかな。じゃあ、一時間後。愛してるよ。（電話切る）
総員 うわ。スカスカ。
さとし いや、ギッシリ。
総員 おおお。

笑い声の分、ちょっと待ってから。

さとし 待ち合わせをしましょう。
全員 合わなければいけません。
気持ちを高めあうために
愛を高めあうために。
僕はすこしはやく行って待っています。
遅刻してもいいです。
待つのも楽しいです。
デパートを抜けて
虹の架け橋を降りて
コリドーを歩いて
突き当たりの白いビルで待っています。
ぼくはいつものテラスで
コーヒーを飲んで待っています。
貴方を待つ時の期待と不安を
コーヒーで落ち着けながら
銀色の椅子で待っています。
駅に出入りする人々や
きれいなディスプレイを見ながら
あなたを待っています。
さとし 待ち合わせをしましょう。
おねえ 最後の荷物が届いたら、
松風 あなたに愛を伝えます。
リラ 僕が先に「好きだ」なんていうから、
ビーナス きっと君は戸惑うでしょう。
真希 返事はこれで変わります。
おねえ 何も伝えない僕と
ビーナス すべてを打ち明けた僕とでは、
さとし 君の心が変わるから。

真希 相模大野で待ち合わせするのと、
ビーナス 君が振り向くこととは良く似ています。
総員 君の心の一番奥の
愛しい人の待ち合わせ
君の心の一番奥の
相模大野で待っています。
さとし 君の心の一番奥で
おねえ 愛しい人が待っている。
さとし 待ち合わせをしましょう
ビーナス 君の心の一番奥で
さとし 僕は待っています。

ちよっとして、インターホン。
振り向いたところで曲入る。
また全員でお客さんを眼でクロス。

照明、落ちていく。

幕

登場人物

さとし 生駒智司。高校生男子。大学受験に向け一人暮らしを始めた。

おねえ 歌のお姉さん。嫁石川の体を借りて参上。実際は唯人を補助しに来た「さゆ」

嫁石川 お向かいの奥さん。未完成のゲームをくれる。前述のとおり歌のお姉さんと同じ人が演ずる。

リラ 堀蘭太郎。リア充高校生。メルヘンファンデーションを持ち込む。美女養成講座の講師らしい。

まき 日向真希（ひゅうがまき）。リラの彼女らしき女子大生。さとのし周辺ではまだカップルが少ないためか、さとしは少し翻弄されている。

プー君 プー君。永遠の三歳。自分の世界のことを書いた漫画をさとのしの手元に送り込み、メルヘンファンデーションを止めるため、作品の外の世界から無理やり介入したが、うっかりラスボスになってしまう。

松風 宇宙剣士の青年。東京ネコに噂だけ出てくる。プー君に付き添って風間唯人も介入したが、手ごろなキャラクターがあまりにもそのまんまなユイトサラリーではなんなので、未登場キャラを装って参上した。

ビーナス さとのしの理想の女性。愛川雪江に酷似。プー君とビーナスは同じ人が演じたため、掃けたラスボスがエンディング用お姫様に早替えして登場するという、脅威的な演出が実現した。

VeNus On The Game

VeNus劇中で省かれたフィールドプレイ

『VeNus_On_The_Game』

状況：魔王参上し、相模大野を中心に勢力拡大中。このままでは恋愛主義国家になり、日常は破綻する。

ルール：異性を魅了していき、一大勢力を作る。駅ビルにいる魔王を魅了できるだけの虜を用意できれば最短でクリアできる。

■前半攻略ルート：だいたい三つのコースだが、後半でこずれば結局全部往復することになる。駅ビルを目指すことは同じ。伊勢丹を要塞にすれば、魔王側からの妨害が減り、決戦に備えやすいぞ。

前半攻略ルート1：豊町→TSUTAYA→中央公園→伊勢丹。

最も安全に進める。ただし、ほぼ完璧に魅了していかないと要塞が作れない。よほど運が悪くないかぎり、ロビーシティが使えるようになる。

前半攻略ルート2：豊町→女子大通り→ロビーファイブ↓伊勢丹。

とにかくエンカウントしやすいので、レベルがかなりあがる。無理っぽいときは、すぐに逃げる。早いうちに虜の才能を見抜き、えりすぐりの勢力に仕上げることもできる。

前半攻略ルート3：豊町→合同庁舎→大野銀座→南新町商店会。

大人コース。前半を最も濃く困難にし、後半ラクにできるルート。積木の街商店会と南新町商店会が味方になると小田急相模原から応援されて、相模原大野駅南口駅ができる。これを要塞にすれば駅ビル攻略が容易になる。

■後半攻略ルート：前半に用意したものをうまく使って決戦に備える。要塞を作るとこれまで入れなかったコリドーに入れるようになる。魔王側や無所属勢力などが入り乱れている。

後半攻略ルート1：伊勢丹→コリドー→駅ビル。

とにかく時間がかかるが、主要メンバーを失わないように地道に勇者側に仲間を増やす。コリドーを制すれば駅ビルを地味に攻略できる。

後半攻略ルート2：伊勢丹谷口陸橋→ポプラ

地味に町田から人がやってくる。時間がかかってきたらこのあたりもファンタスティックパウダーが展開するので、魔王より先に町田を味方につけられる。

後半攻略ルート3：南口駅→駅ビル

すぐに回復しに戻れて、虜も召喚しやすい。あっというまに決戦だが、ミニゲームの練習を忘れないように。

■特殊攻略

喜代美：無所属キャラでは最強の榎本喜代美を使えば相当ラクになる。和馬を入れておけば確実に。

和馬：喜代美を持っている上、リラよりも成長している黒田和馬。『ノブナガEX』か『五人戦記』『第一楽屋』を見せると味方になる。

物の怪：和馬攻略時に、再生するソフトとハードの相性に気をつける。ディスクでもらったからといってメルヘンファンデーションを使うと「物の怪」が発生し、ルールがややこしくなるぞ。松風の戦闘コマンドが急に増えるので慌てないように。

正太郎：カフェ14の店長、青木正太郎。コリドーを制すればまともに表れる。彼さえ会っておけば第三勢力を抑えること準備ができる。

第三勢力：戦いが長引くと他の地域もファンタスティックパウダーの影響を受ける。町田や小田急相模原は勇者側につきやすいが、新宿は新たな勢力になりやすい。現れたらすぐに魔王に勝つか、正太郎に泣き付こう。

さあ、己を探す旅に出よ！

あとがき「時を越えてギッシリとなった作品」

2000年夏頃といえば、盛留脚本がなんだか密集という時期である。1999年のワインレッドという重厚な作品の信用と反省を元に三つの作品が上演された。

その急先鋒が淵源座旗揚げ公演「VeNus」である。盛留真悟÷ワインレッドがVeNusだ。そもそもその式が意味わからないと思う。VeNusは当時やりたいことを端的に全て描いた作品で、そこに提示されるひとつひとつの要素を今後ワインレッド並の丁寧さでやろうとしているんですよという意思表示である。

一方、「風の中の少女」はワインレッドと全く同じ時期に自然発生した脚本で、新しいホールで上演する可能性に賭けて脚本選考で奮戦した。また、「五人戦記」はワインレッドのアンケートとノブナガEXを元に作った脚本である。

「風の中の少女」はVeNusで告知(電子書籍版では省いた)されているし、えらい短い冒険シーンは「五人戦記」を示唆している。

この作品について「一番ひどい」とか「なるべく汚点として輝くように」という発言をしてきたけれど、これらはひっかけで、当時としては最新のセンスを盛り込んである。ただ、表現の仕方が第三世代小劇場らしくまとめているので、少しごさかしいかも知れない。(※1)

解説をしておく、この作品は実在する風景を借りたり、部分を見せたりすることで上演時間以上の内容を見せるという手法が多くとられている。

舞台は豊町から始まり相模大野の駅ビルに至るのだが、初演はグリーンホール相模大野だったため、よそから来る人は帰りに「これが魔王城かあ」と相模大野駅を見ることになる。これが景色を借りるということの一端。

プーくん、歌のお姉さん、松風に至っては部屋の外どころか別世界から来たことになっている。ゲームのような世界になりつつあるのだから、その外というものもある。あえて劇中で明言せず、設定だけ存在する。これが部分を見せるという手法。

これって今となってはアニメなどで多用されている手口で、それをわざわざ第三世代小劇場風味にまとめるというのがコンセプトである。

究極の夢オチマシーンと言いながら、実は夢オチできなくなってしまうという投げっぱなしは、「淵源座というものが始まって、皆さんどんどん巻き込まれますよ」というメッセージである。劇団はある意味で魔法ステッキなのだ。※2

あれから12年。時代は盛留作品に追い付いた！

さあ、己を探す旅に出よ！

※1 第三世代

第一世代をアングラとした場合、キャラメルや第三舞台を第三世代小劇場というらしい。そう数えると宮藤官九郎が第六世代なので、盛留演劇は第6.5世代くらいだと考えられる。すると335とか145は第七世代。

※2 魔法ステッキ

盛留作品では簡易式メルヘンファンデーションを魔法ステッキと呼ぶ傾向がある。

2012年9月25日 神奈川にて
盛留真悟

ProjectMeltDown

原案 雷音寺 翔汰狼「Project"meltDown"」 「Planet In Your Eyes」

原作 毬宇斎 悟達「瞳に映る惑星」

VeNus Fantastic Powder

小劇場公演のための戯曲「VeNus」淵源座旗揚げ公演版

2000年盛留真悟作品

"VeNus" (C)MoridomeShingo2000, ALGI Products1996-2000

■この物語はフィクションです。実在の人物・団体等とは関係ありません。

二〇一二年盛留真悟作品
著作権管理 アルジプロダクツ

※ 雷音寺翔汰狼、RaiiShadow、毬宇斎悟達 は盛留真悟のペンネームの一部であり、著作権を管理するアルジプロダクツは盛留真悟の屋号である。したがって、この作品における全ての権利は盛留真悟が有する。

※この作品は2000年公演の淵源座旗揚げ公演用脚本を再編集し、改行等の修正を加えたものである。編集に当たり解説や加筆をした。予告なく訂正や加筆を行うことがあるが、バージョンは奥付等に記録される。

転載などに関するガイドライン

※営利の目的ではない教材等への引用は自動的に許可される。その場合、著作人格権の主張に伴い、RaiiShadow

(<http://plaza.rakuten.co.jp/>) もしくは盛留真悟 (<http://moridome.com/>) の表記を義務付けるものとする。

※ 上演許可等について。

・本作品の使用(*1)は営利目的でない限り無料です。(上演許可料無料)

・本作品の使用(*1)にあたり課金する場合は上演料・販売価格などの5~10%にご利用人数(*2)を乗じた料金を請求いたします。ご使用(*1)の際には著作権管理者盛留真悟までご連絡ください

(*1)使用とは

演劇としての上演の他、映像化やコミック化、ノベライズ、N次創作を含む諸々の作品化です。

(*1)利用人数とは

お客様と製作者を合計したものです。



VeNus <http://p.booklog.jp/book/17645>

著者 : 盛留真悟_ALGI Products

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/algiproducts/profile>

感想はこちらのコメントへ <http://p.booklog.jp/book/17645>

ブックログ本棚へ入れる <http://booklog.jp/item/3/17645>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier (<http://p.booklog.jp/>) 運営会社 : 株式会社ブクログ